

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：令和元年12月22日

【基本情報】

○申請者

採 択 年 度：平成 30 年度

部 局 名 等：経営管理大学院

職 名：准教授

氏 名：金 広文

研究課題名：「インドシナの包摂的な経済発展：国際間の経済的相互依存性と格差への影響に関する研究」

○渡航先

国 名：フランス

研究機関名：Organization for Economic Co-operation and Development (OECD)

研究室名等：[研究室名] Directorate for Science, Technology and Industry (DSTI)

[職名等・氏名] エコノミスト・山野紀彦

渡 航 期 間：2018 年 7 月 1 日～2019 年 3 月 17 日（262 日間）

○渡航期間中の出張

出 張 先：フィリピン（マニラ：中央銀行（DAKIRA 部長、統計局（VIVIAN 課長）、ADB（KIM 博士）、フィリピン大学（エスゲラ教授）、ベトナム（ハノイ：統計局（Phong 部長）、社会科学院（Trinh 博士））、

目 的：上記の関連機関に訪問し、上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。

期 間：2018 年 8 月 7 日～14 日

出 張 先：韓国（ソウル：中央銀行（Jong 課長）、世宗市：産業研究院（KIEP：李博士）・ハンバット大学（道教授））

目 的：上記関連機関に訪問し、上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。

期 間：2018 年 9 月 10 日～17 日

出 張 先：フィリピン（マニラ：統計局（VIVIAN 課長）、NEDA-PPP センター（Ricotte センター長））、ベトナム（ハノイ：統計局（Phong 部長））、ラオス（ビエンチャン：国家統計局（Salika 課長））、タイ（チェンマイ：国際会議（Trinh 博士））

目 的：上記関連機関に訪問し、上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。

期 間：2018 年 9 月 17 日～29 日

出 張 先：日本（東京：フランス大使館（VISA）、JICA 本部（山下専門員）、首都大学東京（清水教授）、立教大学（櫻本准教授）、西宮市：関西学院大学（名古屋大学・藤川清史教授）、大阪市：大阪市立大学（内田教授）、長崎市：長崎大学（吉田護准教授）、名古屋市：名城大学（森杉教授）、愛知学院大学（学会 PAPIOS 参加・発表））、ラオス（ビエンチャン：統計局（Sone 副局長））、ベトナム（ハノイ：社会科学院（Thai 教授））、ミャンマー（ネピド：IMF（生島所長）、国家中央統計局（U Thein Tun 副局長、ほか））

目 的：上記関連機関に訪問し、上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。

期 間：2018 年 9 月 29 日～11 月 5 日

**京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム**

- 出張先：フィリピン（マニラ：中央銀行（Dakila 部長）、フィリピン大学（エスゲラ教授））、
韓国（ソウル：中央銀行（Jong 課長、KEIP（李部長）））
目的：上記関連機関に訪問し、上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。
期間：11月5日～14日
- 出張先：オーストリア（ルクセンブルク）国際応用システム分析研究所 I I A S A
目的：IIASA を訪問し、Samir 博士、横松准教授と研究打合せを行った。
期間：2018年12月16-20日
- 出張先：スペイン（バルセロナ：Agencia d' Ecologia Urbana de Barcelona (Dr.Cynthia Echave Martinez 氏)、Business school, University of Navarra (Victor Martinez de ALbeniz 教授、横松准教授)、セビリア：EC 研究所
目的：上記関連機関を訪問し、上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。
期間：2019年12月23-日28日
- 出張先：スペイン（バルセロナ：Ostelea School of Tourism & Hospitality (Claudio 教授)、
Agencia d' Ecologia Urbana de Barcelona (Dr.Cynthia Echave Martinez 氏)
目的：上記関連機関を訪問し、上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。
期間：2019年2月12-13日
- 出張先：オーストリア（ルクセンブルク）国際応用システム分析研究所 IIASA (Samir 博士)
目的：IIASA での研究会に出席し、上記課題に関する研究報告と意見交換を行った。
期間：2019年2月21-22日
- 出張先：フランス（ストラスブール）ストラスブール大学経済学部（Pham 准教授）
目的：上記課題に関する聞き取り調査・資料収集を行った。
期間：2019年3月7日

- ※ 渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。
- ※ 複数回に渡る場合は、適宜追加して下さい。

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム 研究者派遣プログラム

【成果】

○プロジェクトの成果及び今後の展開

・研究概要

経済のグローバル化が経済発展をもたらす一方で、国際分業ネットワークへの参加が先進国・途上国の双方で利益と不安の両方をもたらす「先進国と発展途上国の相反する懸念」やアジア各国での急速な高齢化による「世代間格差の不安」、そして「各国の資源獲得競争や環境問題の国家間コンフリクトによるリスク」が増大しており、インクルーシブ（包摂的）な経済成長に向けた共通政策の立案や地域協力の合意形成が重要であるが、その促進のためにはエビデンスに基づく数量的な分析・評価が必要である。OECDなどの国際・研究機関では全世界を対象に各国の経済統計を収集し、グローバル経済のインパクトを分析するために野心的なデータベース(DB)を整備しており、経済協力に関する政策課題について多角的な実証分析を進めている。DBは各国政府の公的統計、国際機関により補正・標準化された統計、そして各国専門機関の統計（非公表データ、マイクロデータ）を活用して整備されるが、その際、「使用される一次統計」と「推計される加工統計」との間で合理的な整合性が必要である。EUを除いたアジア各国の政府統計は整備水準が多用途、DBに必要な統計の多くは欠落しているかブラックボックス化され、これまで「国際比較が可能な水準を満たしているか？」についての学術的検証が不十分であった。

派遣者はこれまで各国政府が推計できなかった「国家間・地域間産業連関表」をフィリピンとインドシナ地域（ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー等）で推計し、国家間・地方間の越境交通・経済・環境の数量解析のデータ基盤を整備してきた。本在外研究では、欧米とアジアの大学・国際機関・政府機関（統計局、中央銀行、財務省）の関係者らが組織横断的な協力しながら国際的な経済協力政策の数量的な評価・分析の実現可能性を探求するために、平成30年度7月1日から平成31年度3月17日に国際的に最も蓄積されている国際機関（OECD）に渡り、同機関の客員研究員（Staff on Loan）として、同機関に在籍する専門家らと共同研究の展開を行った。主なテーマは以下の通り。

【テーマA】政策評価に必要な統計整備の現状・課題整理

【テーマB】国・地域／世帯の異質性を考慮した経済の格差要因・相互依存性の解析の検討

【テーマC】地域統合に向けた経済協力政策の実現可能性の課題整理

在外研究期間中に国際機関（OECD、ADB、UN、IIASAなど）及び対象国の政府機関・大学・研究機関などを個別に訪問し、統計学者、研究者らと学術的対話や資料収集を実践的に行うことができた。

・国際共同研究の立上げ・ネットワークの構築

本申請の受入研究機関であるOECDには、申請者と同世代の研究者が数多く在籍し、受入れ研究機関が同分野の欧州でのアカデミックを有することから、組織内外の複数の専門機関が主催する研究会や自主勉強会に参加することができて、本研究分野に関する共同研究を新たに展開することができた。とりわけ、欧州委員会（EC）・研究所、国際応用システム研究所（IIASA）、国連（UNIDO、IAEA）、ウィーン大学・人口研究所、ストラスブール大学・応用経済研究所、EBRDなどの欧州に所在する専門機関との研究者らと人脈を築くことができた。その人脈に基づき以下の国際共同研究の計画の他、学内での学術・教育活動へのフィードバックを予定している。

- 1) 国際共同研究の計画（研究課題名：「アジアの包摂的な経済発展：政府統計を活用した経済の相互依存と格差に関する数量解析（2020年度科研基盤（B））」）へ申請
- 2) 京都大学-OECD 学術交流協定締結（全学レベルの学生派遣）の支援（2020年11月29日）
- 3) 京都大学-OECD 講演会の開催（2020年3月27日の予定）
- 4) IIASA 研究者の招聘（教養・共通教育集中講義担当外国人教員プログラム（国際高等教育院：2020年2—3月：予定）
- 5) 「国際会議（第4回 IEC-PAPAIOS）」本学での開催予定（2020年3月27-29日）

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム 研究者派遣プログラム

・国際共著論文の投稿・発表等の状況、国際学会等での発表状況 [予定を含む]

学会発表

1. K. Kim, N. Yamano, B. Trinh, " The Extended Applied Input-Output Model with Heterogeneous Household in Vietnam: a microdata approach" , Presented at The 29th Conference of PAPIOS, Nagoya (2018. 11))
2. K. Kim, N. Yamano, B. Trinh, "Demographic and income heterogeneity household Input-Output model: consumer behavior in a transition economy, Presented at 27th International Input Output Techniques, Scotland (2019. 7)

・在外研究経験によって習得した能力等

本在学研究では、滞在中に同課題に携わる組織内外の一線級の専門家と議論を深め、多くの知見を得ることができた。また、国際機関での学術的課題や大学との知的連携や学術交流を進めるための組織内外のプロトコルマネジメントを実践的に学ぶ機会を得たので、今後の研究室の運営方法や学生指導の参考になった。

・在外研究経験を活かした今後の展開

本在外研究で得た成果については、今後、所属する学会等において順次公表する予定である。また、国際的な経済協力政策の数量的な評価・分析の実現可能性を探求する他に国際機関(OECD, UN等) やアジア各国の大学・政府機関と連携しながら、同時地域の政府統計能力の改善に向けた「国・組織を越えた学術的発展」に向けて世界に情報発信する予定である。

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

英文成果報告書

○申請者情報

部 局 名 : (英 語) Graduate School on Management

職 名 : (英 語) Associate Professor

氏 名 : (英 語) Kwangmoon KIM

研究課題名 : (英 語) Inclusive economic development in Indochina: exploring intercountry interdependencies and their impacts on income inequality)

渡 航 期 間 : July. 1, 2018 to March. 17, 2019

○渡航先情報

国 名 : (英 語) Paris France

研究機関名 : (英 語) Organization for Economic Co-operation and Development (OECD)

研究室名等 : (英 語) Directorate for Science, Technology and Industry (DSTI)

受入研究者名 : (英 語) Norihiko Yamano

○渡航報告

[Research Environment]

Directorate for Science, Technology and Industry (DSTI) at Organization for Economic Co-operation and Development (OECD) is classified as one of the world's largest and most trusted sources of analysis and statistical data, we relish the opportunity to tackle the tough issues. DSTI has contributed to many strands of the OECD's multidisciplinary analysis, including in areas such as global value chains (GVCs), productivity and inclusive growth. By leading the OECD's work on the 2015 update of the Innovation Strategy and knowledgebased capital (KBC), DSTI helped break new ground in understanding how policy makers must steer their economies in an increasingly complex and global world. I have affiliated in as one of the Visiting Scholars of academic year 2018~2019. During my stay at OECD, I had a lot of chances to interact and exchange opinion with various researchers and expert, including Applied economist, Ph.D Scolar, sinnior expert. Thanks to my colleagues, kindly advise, I was able to extend my rearch object, where the platform expands in the world(Photo-1,2).



(Photo-1, 2) I gratefully used office room with my colleagues in OECD

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム 研究者派遣プログラム

[Interaction with researchers, Research presentation]

During my visit, I have presented my research topic with my host researcher at research seminar of Wittgenstein Centre, International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA) on Feb.2019 (Photo-3,4). I did not only get a chance to discuss individual research issue, but also discuss with Prof. Albert Van Jaarsveld (Director general of IIASA) on feasible direction academic collaboration with IIASA-OECD-Kyoto University (Photo-3,4).



(Photo-3,4)

[Some experience in overseas visiting]

This research is expected to increase research camaraderie among scholars from all disciplines interested in the effects and consequences of Asian economic development. This research will not only provide academic advancements but also provide stimulus to other researcher and mobilize academic collaboration. Moreover, this research expects to facilitate policy development using mutual collaboration of qualitative and quantitative analysis. Through insights and lessons obtained through connections to other scholars at host institute and policy dialogues with local government officials in the Indochina region, this research is expected to contribute on the body of knowledge and practical arena in creating effective economics development policies (Photo-5,6).



(Photo-5, 6) at UN (in Vienna) and ADB Forum (in Changmai)